

入場無料! お子さんと一緒に楽しみください♪ 「バギーのままコンサート Vol.14」

ベビーカーや車いすのまま入場できる「バギーのままコンサート」。今回は「くりんぐりんぐ」による歌とピアノのコンサートです。小さなお子さんから大人の方まで楽しめる内容ですので、ぜひお気軽にご来場ください。

期日▼9月6日(土)

時間▼午前11時～11時55分(午前10時30分開場)

場所▼総合福祉センター「絆」

定員▼先着100人 ※定員を越えた場合、安全のため入場制限を行うことがあります。

出演▼くりんぐりんぐ(▽ソプラノ…大内瑠美さん、橘紘子さん
▽ピアノ…佐藤美乃里さん、忠和子さん)

その他▼▽授乳室、おむつ替え室があります。▽会場内に、乳幼児用のハイハイスペースを設けます。

問い合わせ▼東海文化センター(☎282-8511)※事前申し込みは不要です。



▲HPはこちら



【大内瑠美さん】



【橘紘子さん】



【佐藤美乃里さん】

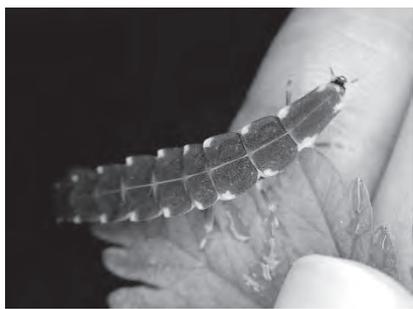


【忠和子さん】

ふるさと歴訪 自然を探してー クロマドボタル

ホタルと聞いて多くの人が思い浮かべるのは、梅雨の時期に村内各地の水田周辺で数多く見られ、観察会も開かれているゲンジボタルやヘイケボタルなど、幼虫が水中で過ごす水生ホタルでしょう。しかし、日本産のホタル約50種のうち、幼虫が水中で生活するホタルは、これら2種に加えて沖縄県久米島で発見されたクメジマボタルの3種のみです。つまり、大半のホタルは幼虫が陸上で生活する陸生ホタルです。今回は、村内でも観察できる陸生ホタルの一種、クロマドボタルについて紹介します。

クロマドボタルは、コウチュウ目ホタル科マドボタル属に分類され、主に東日本に分布しています。雄成虫は1センチメートルほどの大きさで、体色は艶のない黒色をしています。前胸部背面を覆う前胸背板の前縁には左右1か所ずつ、透明な窓状の部分があり、「クロマド(黒窓ボタル)」の和名の由来となっています。腹部末端にある発光器からは、ゲンジボタルやヘイケボタルと比べると弱い光を放ちますが、雄が雌を探索する際には主に性フェロモンが使われており、発光は補助的に用いら



【クロマドボタルの幼虫。5月、村内の水田近くの雑木林にて。草の上で複数の個体が発光しながら歩行していた。】

ていると考えられています。クロマドボタルは昼夜を問わず活動する「両行性」で、筆者も初夏の日中に村内の雑木林で飛翔していた雄を採集した経験があります。

雌成虫は淡黄色で、翅が退化しているため腹部背面が露出しており、一見すると甲虫の成虫とは思えない姿をしています。

幼虫は日没後、腹部の端にある一对の発光器を連続的に光らせながら、林の地表や草の上、樹木上をシャクトリムシのような動きで歩行します。主な餌は陸生の貝類ですが、ダニやクモなどの小動物、さらにはアカメガシワの樹液を摂取することが報告されています。幼虫は、越冬した個体が活動する春から、孵化後の個体が活動する秋まで、長期間にわたって観察をすることができるといえます。

水生ホタルと比べて地味で目立ちにくい陸生ホタルですが、クロマドボタルは里山的な環境に生息する生物であり、今後も村内でその姿を観察できることが期待されます。

茨城キリスト教学園中学校教諭

中村 篤史

